



## 主体的な学びの姿を求めて

### ～特別活動、総合的な学習の時間、及び各教科の学びの往還によって～

昨年度、本校は玉名市教育委員会指定「小中一貫教育研究校」として研究実践に取り組んできていました。その最大の成果が五者連携シンポジウムの開催でした。その実績を確実に受け継いでいる姿が4月6日の教職員と生徒会執行部との合同会議でした。まだ就任式も始業式も行っていない中で初めて生徒会執行部のみなさんと対面した私は、その堂々とした発表や受け答えにとても大きな頼もしさを感じたことを鮮明に記憶しています。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも本年度から来年度に掛けて本校は、同じく市教委指定「特別活動研究推進校」として研究実践に取り組んでいます。

本年度の研究主題は「ふるさと天水の良さに気付き、たくましく未来を切り拓く生徒の育成～主体的な学びの姿を引き出すカリキュラム・マネジメントを通して～」です。この研究主題は当然学校教育目標「自ら学び、心豊かに、たくましく未来を切り拓く生徒の育成」の達成に向かうものでもあります。感染症対策を講じながら新しい生活様式に即して学校生活、学習活動を進めていく中には、ピンチをチャンスとして考えられる点も多様にありそうです。

ところで、「特別活動」を研究するとはどういうことなのかと疑問に思われる方がいらっしゃるかもしれません。

そこで、「特別活動」について紹介させていただきます。

特別活動は、学級活動、生徒会活動、学校行事から構成されています。これらの中で生徒会活動の各委員会活動の具体的な取組が始まっています。

第1に「新型コロナウイルスに負けるなプロジェクト」(“One for All, All for One” Project)があります。これは委員会ごとに特色ある感染症対策を考え、実践しているものです。具体例として放送委員会は「新しい生活様式やウイルス対策」を紹介するなどしています。

第2に「天水町を見てこよう」が始まります。

「ふるさと天水の良さ」に気付くために、一人一人の生徒さんが自ら課題意識を持ってふるさと天水町を委員会ごとに探索に出かけます【7月8日】。これは、「たくましく未来を切り拓く」ために、天水町の未来のために自分にできること【地域貢献】は何かを考える機会につながっていきます。

これらの取組は、今後も総合的な学習の時間や各教科の学習としっかり関連させながら計画的・継続的に進んでいきます。こうした往還が「カリキュラム・マネジメントを通して」という視点です。

本年度の生徒会活動、特に委員会活動は感染症対策を十分に講じながら学校内だけではなく、地域に出向いていく機会が増えます。地域社会に開かれた教育課程の実現を通して「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」天水中学校づくりへの取組です。

そうした意味で保護者や地域の皆様にもお世話になることが増えます。自転車の乗り方やマナー面などの事前指導をしっかりと行いますが、お気づきの点がございましたら遠慮なく学校へお知らせいただきますようご理解とご協力をお願いいたします。